

3. 「さきがけはくとう」の大玉生産のための樹相

[要約]

「さきがけはくとう」は、樹勢の強い樹で果実が大きい傾向があり、市場ニーズの230～250 gを生産するには、やや強めの樹勢で管理するのが望ましい。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 情報

[背景・ねらい]

「さきがけはくとう」の果実は、既存の早生品種と比較するとやや小玉（育種段階では210 g程度）である。市場ニーズでは、230～250 g程度であると販売しやすく、単価も見込めることから、大玉生産が必要である。そこで、大玉で高品質果実の生産のための樹相について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 果実重は、葉長が長いほど大きい傾向にあり、樹勢が強い樹ほど果実肥大が優れる傾向にある。反対に、樹勢が弱く、葉長が14cm未満、葉色値が40未満では、果実が小さい傾向にある（表1、図1）。
2. 糖度については、果実重及び各生育調査項目との間にも有意な相関関係は認められない（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 農業研究所及び現地ほ場の4～6年生樹の若木を用いて調査した結果であり、樹齢の経過により、市場ニーズの230～250 gを生産するのに適した葉長、葉色値は変動する可能性がある。
2. 300 gを大きく超える果実は日持ち性が劣ることがある。そのため、樹勢の強い樹では着果量を多くするなどして、過度な大玉生産を控える。
3. 葉の調査は、満開約60日後を目安に行い、樹冠外周の結果枝先端の新梢で、5 cm以上に展葉した葉を基部から数えて5～7枚目を1樹当たり20枚程度用いる。

[具体的データ]

表1 果実重、糖度と各調査項目間の単相関係数^z (2015年)

	1葉重	葉長	葉色	葉中窒素含有率	新梢停止率	徒長枝発生本数	樹勢 ^y	果実重
果実重	0.712 ** ^x	0.748 **	0.412 *	0.579 **	-0.553 **	-0.048	0.550 **	-
糖度	-0.115	-0.142	-0.191	-0.255	0.082	-0.226	-0.381	0.046

^z 徒長枝発生本数は8月下旬調査、その他の項目は満開約60日後の調査データ

^y 樹勢は、新梢伸長程度、葉色、葉の大きさ等の総合評価による5段階(1:弱勢、2:やや弱、3:中、4:やや強、5:強勢)で評価

^x **は1%水準、*は5%水準で有意(n=26樹)

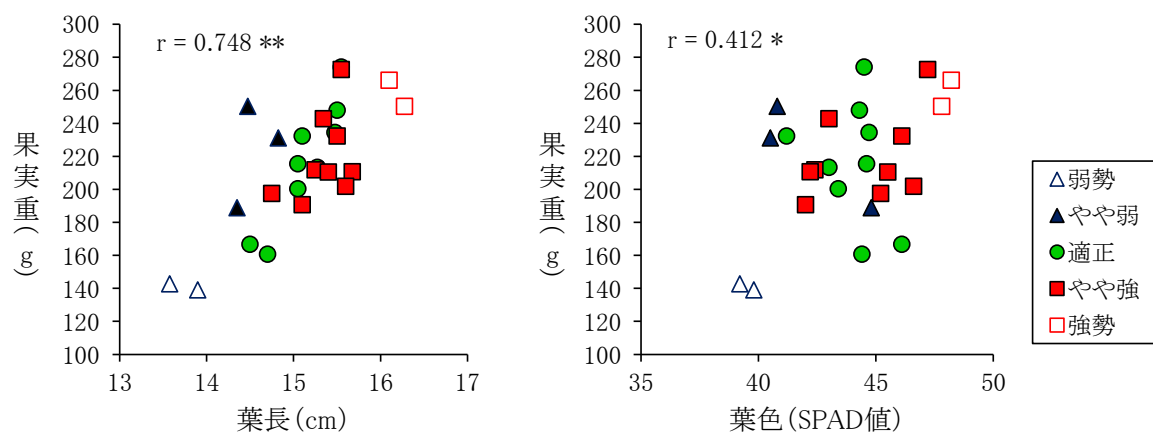


図1 葉長及び葉色と果実重との関係 (2015 年)

樹勢は外観から達観により5段階(弱勢、やや弱勢、適正、やや強勢、強勢)で評価
(n=25 樹、**は1%、*は5%水準で有意)

[その他]

研究課題名：モモのオリジナル新品種の高品質安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2012～2016年度

研究担当者：荒木有朋、樋野友之、藤井雄一郎

関連情報等：1) 高野 (2010) 岡山県農業研報、1 : [23-90](#)

2) 日原ら (2012) 岡山県農業研報、3 : [11-15](#)

3) 平成27年度試験研究主要成果、[27-28](#)、[29-30](#)